



『2014年度プロジェクト・オンブレ研究所報告』より

## スペインにおける アルコール・薬物依存者の特徴

筆頭著者／井上智恵(立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程3回生)  
共著者／近藤京子(NPO人ASK:アルコール薬物問題全国市民協会)

# アディクション回復支援機関 「プロジェクト・オンブレ」

- ・1984年、首都マドリードに誕生  
(イタリアのProyetto Uomoを参考)
- ・27支部(15自治州)  
各支部は自立運営  
一貫した治療論、支援哲学を共有
- ・年間1万9000人の依存者とその家族に対応
- ・世界治療共同体連盟役員



# ●プロジェクト・オンブレの視点

Proyecto: 計画、プロジェクト  
 Hombre: 人間、人

人間計画

人生や生活を  
再構築する場

その人の中で  
何かうまいっていない

その人の人生に  
おいて、単に  
一事件にすぎない

## 依存のとらえ方

- ・依存は、その人が抱える問題が症状として表われたものである
- ・人は、あらゆる依存から脱却して生きることを選び、変わることができる

## プログラムの特徴

生物・心理・社会(+実存)モデルを基礎に、各地方の文化や支部のニーズ、利用者の状態に応じたプログラムを展開

- ベーシック治療共同体プログラム ●夜間プログラム ●通所プログラム
- 重複障害プログラム ●思春期プログラム ●ハームリダクションプログラム
- 刑務所内治療共同体 ●予防プログラム ●EAPプログラム ●家族プログラム、など

## ●プロジェクト・オンブレ協会(本部)

全国規模で行なうキャンペーンやプログラムの企画開発、助成金事業、国際連携。大学など外部機関と連携し、研究、調査を実施

1991年:セラピストを養成するための研修センターを創設

2000年:利用者の特徴に関する調査を開始

プログラム開発と評価などを行なう評価委員会を設置

2007年:研究開発部の設置(現在は研究所)

治療データ管理・情報通信技術PH Nemosを開発

★変わりゆく依存者像をとらえるため、

2013年から『プロジェクト・オンブレ研究所報告』を発行

# 『2014年度プロジェクト・オンブレ研究所報告』 ～アディクション問題を抱えた人たちの特徴～

## 【主な目次】

### 1. 調査・分析方法

### 2. データ分析

社会人口学的データ: 概観

社会人口学的データ: 男女別

社会人口学的データ: 薬物別

自治州別データ

### 3. まとめ



\* 2015年6月25日公表

PROYECTO HOMBRE

**【調査期間】** 2014年1月1日～12月31日

**【対象・調査方法】**

●全国のプロジェクトオンブレで対応した10508名を各支部が  
PH Nemosに登録（スペインの9割を網羅）



●6152名が各支部で成人対象の治療プログラムを開始  
（ハームリダクション、刑務所、思春期、予防、EAPプログラムを除く）



●2930名にEuropASI（嗜癖重症度指標ヨーロッパ版）を実施



●有効標本数：1941名（SPSS 21.0，SQL補正後 $P < 0.05$ ）

## 嗜癮重症度指標ヨーロッパ版「EuropASI」

1980年にMcLellanらが米国で開発した嗜癮重症度指標  
(Addiction Severity Index)第5版ヨーロッパ版

### <分析項目>

医学的状态(16項目)

雇用・生計状态(26項目)

薬物・アルコール使用(28項目)

法的状态(23項目)

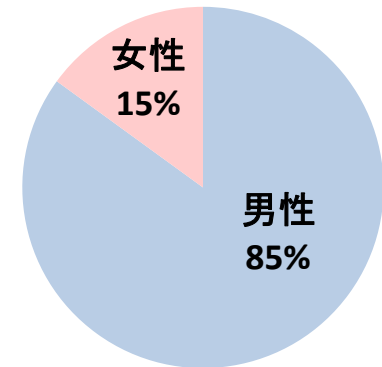
家族・社会的関係(26項目)

精神医学的状态(22項目)

## ● 依存者の特徴：概観

- 主にスペイン国籍の男性
- 半数以上が独身
- 平均年齢37.9歳
- 主たる使用薬物は「アルコール」「コカイン」。「大麻」は増加傾向
- 約半数が都市部に在住
- 全体の45%が義務教育を終えていない
- 約4分の1に司法問題がある
- 身近な人や仕事から収入を得ている
- 3人に2人が家族またはパートナーとの間に葛藤・対立を抱えている

### ▶ 利用者の男女比

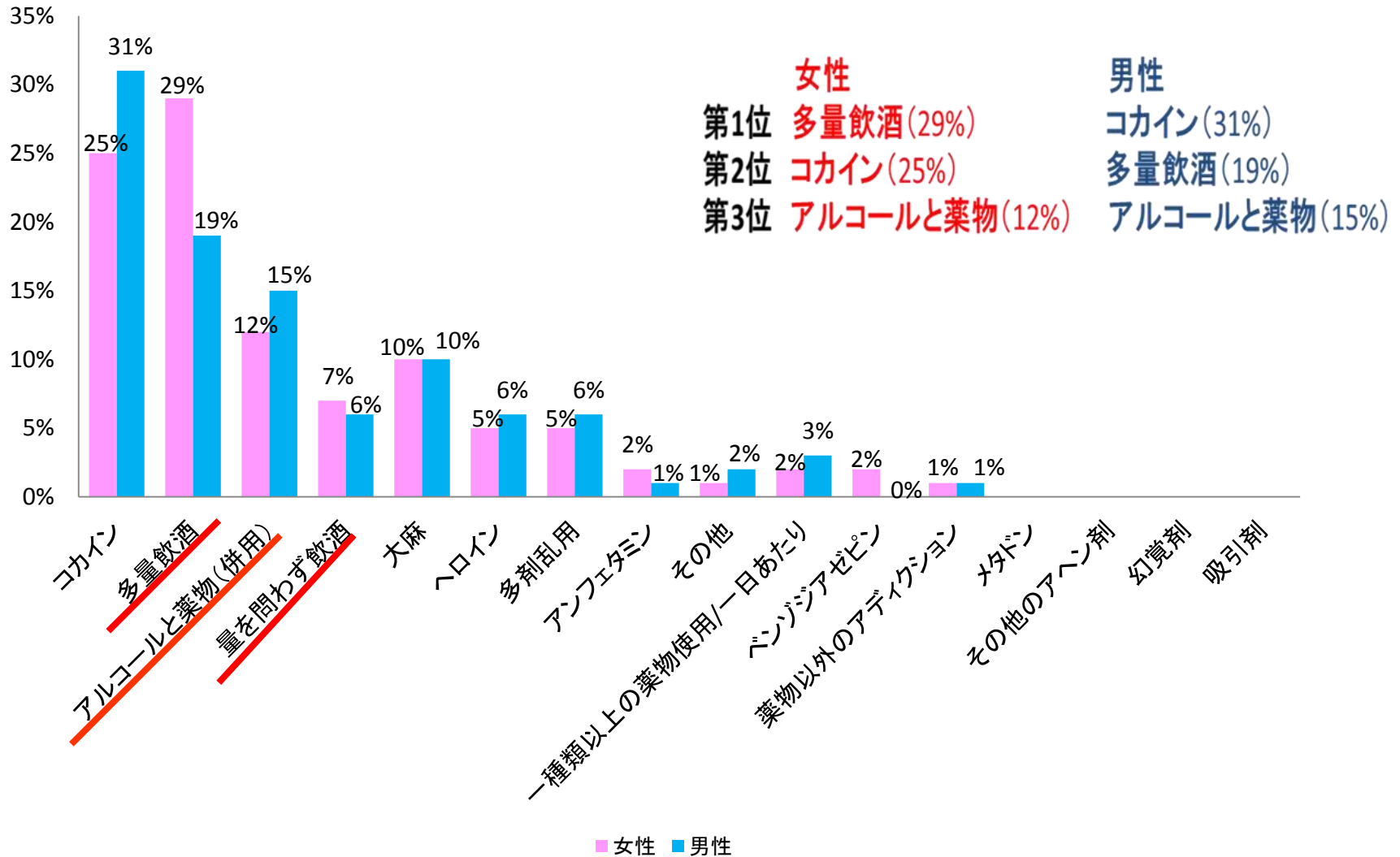


### ▶ 利用者の年齢層

18～25歳	9.7%
26～35歳	34%
36～45歳	34.7%
46～55歳	16.6%
56～65歳	4.6%
65歳以上	0.4%

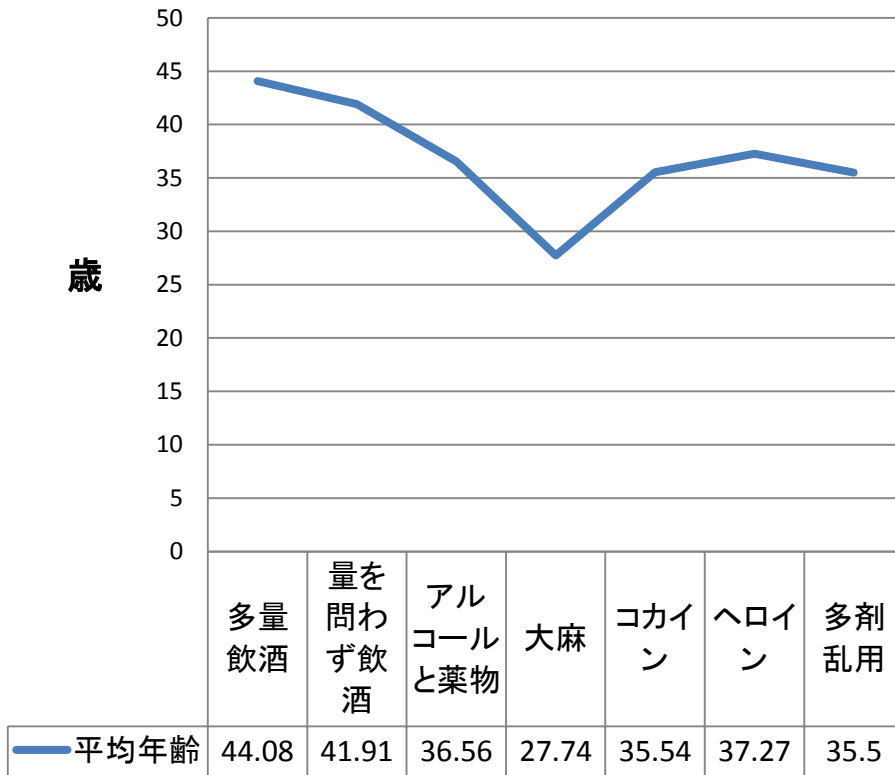


## ▶主たる薬物：男女別



\* 主たる薬物の傾向は「アルコール」と「コカイン」で、年々顕著になってきている  
 男性と女性では、「コカイン」と「アルコール」の順位が逆転

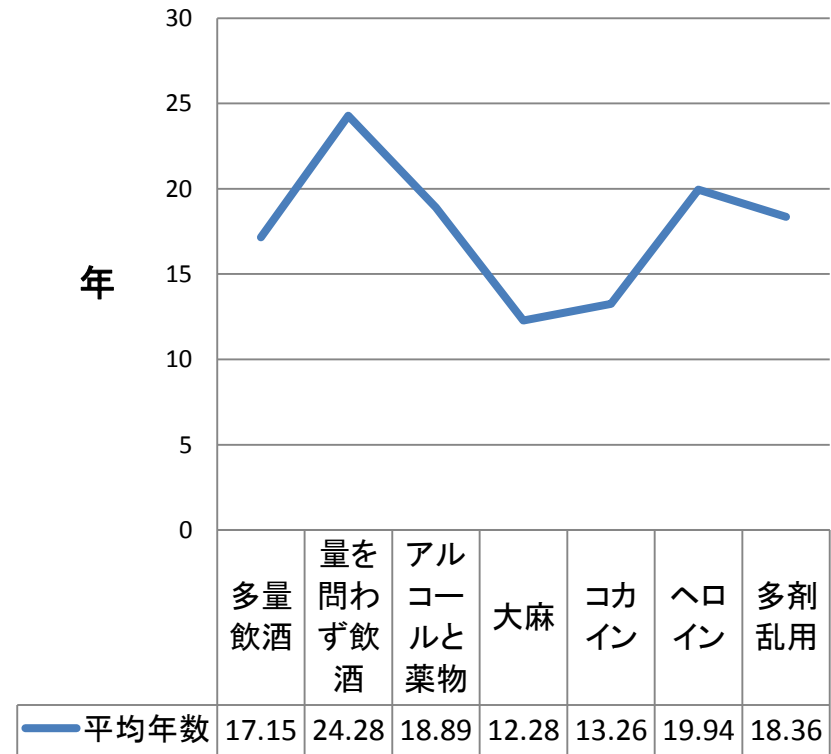
## ▶平均年齢:主たる薬物別



\* 主たる薬物によって平均年齢に差異

- ・アルコール = 44.08歳 / 41.91歳
- ・コカイン = 35.54歳
- ・大麻 = 27.74歳

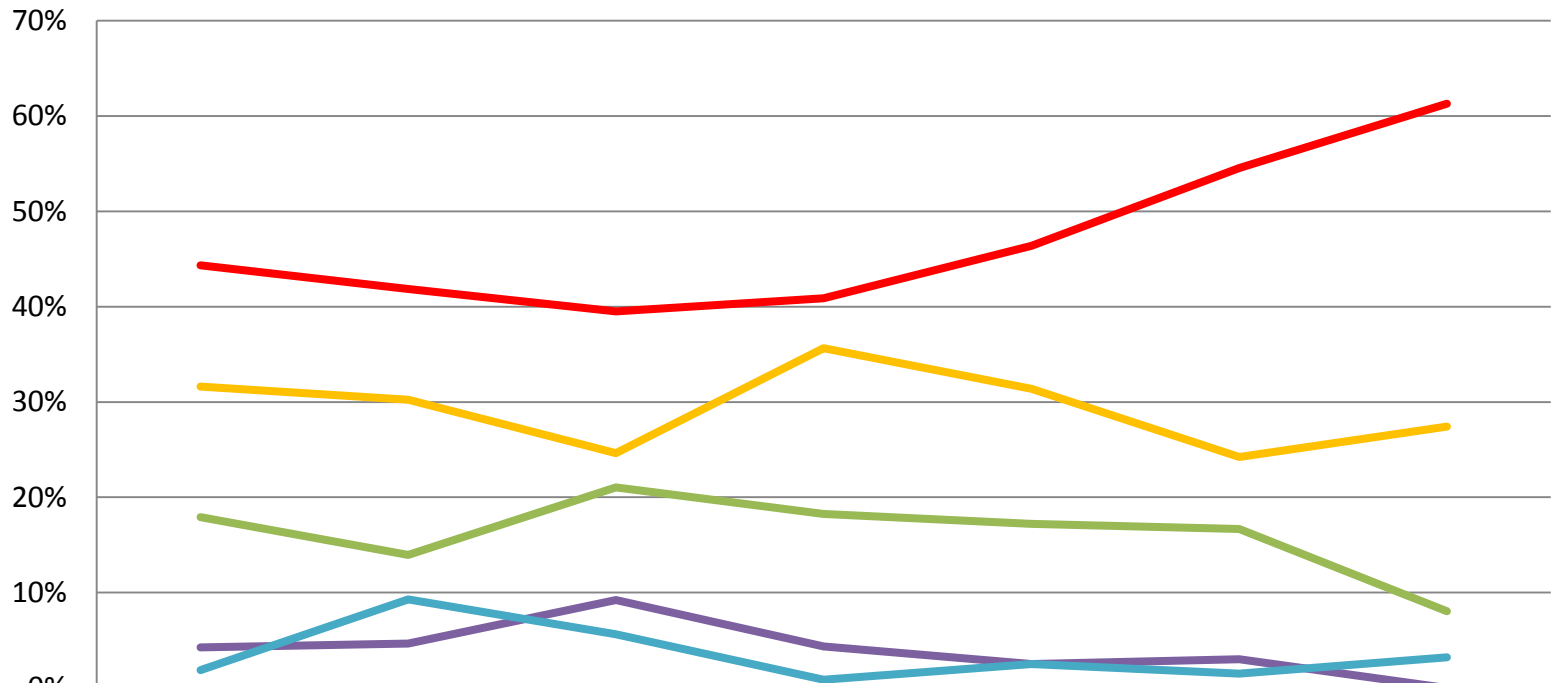
## ▶薬物使用平均期間:主たる薬物別



\*「アルコール」「ヘロイン」「多剤乱用」は使用歴が長い

- ・アルコール = 17.15年 ~ 24.28年
- ・ヘロイン = 19.94年
- ・多剤乱用 = 18.36年
- ・コカイン = 13.26年
- ・大麻 = 12.28年

## ▶教育水準:主たる薬物別

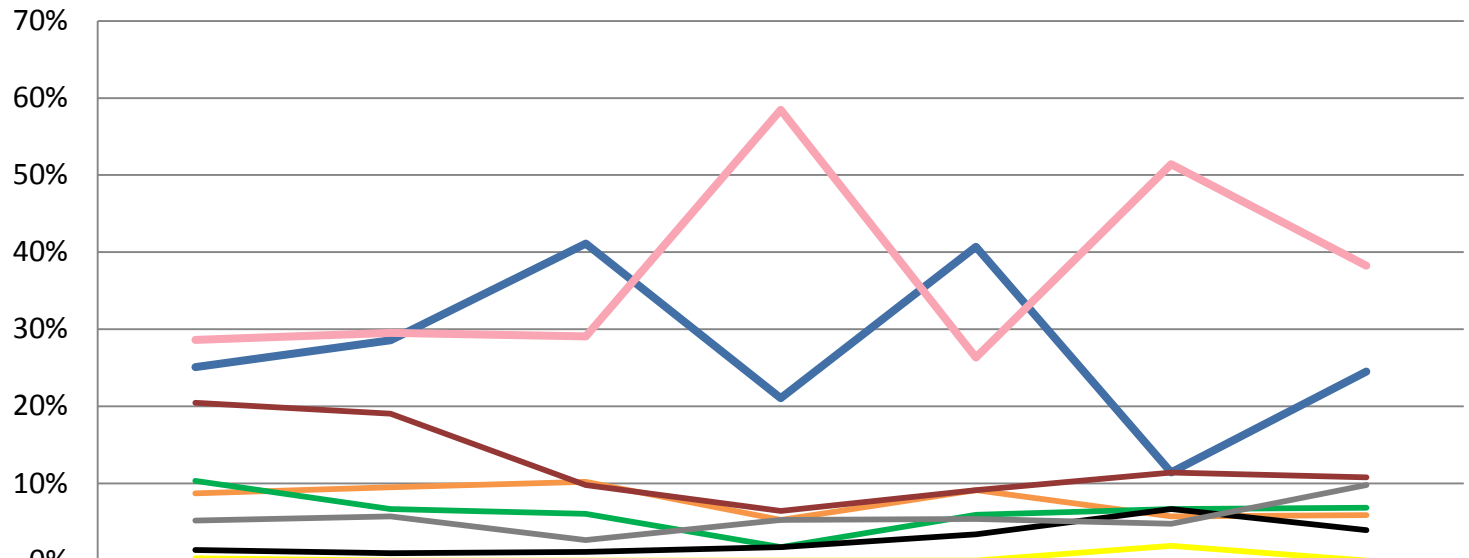


	多量飲酒	量を問わず飲酒	アルコールと薬物	大麻	コカイン	ヘロイン	多剤乱用
義務教育未修了	44.34%	41.86%	39.49%	40.87%	46.39%	54.55%	61.29%
初等教育	31.60%	30.23%	24.62%	35.65%	31.39%	24.24%	27.42%
中等教育	17.92%	13.95%	21.03%	18.26%	17.22%	16.67%	8.06%
学士	4.25%	4.65%	9.23%	4.35%	2.50%	3.03%	0.00%
修士	1.89%	9.30%	5.64%	0.87%	2.50%	1.52%	3.23%

\* 全体の45%が義務教育を終えていない

特に「多剤乱用」61.29%と「ヘロイン」54.55%と高かった

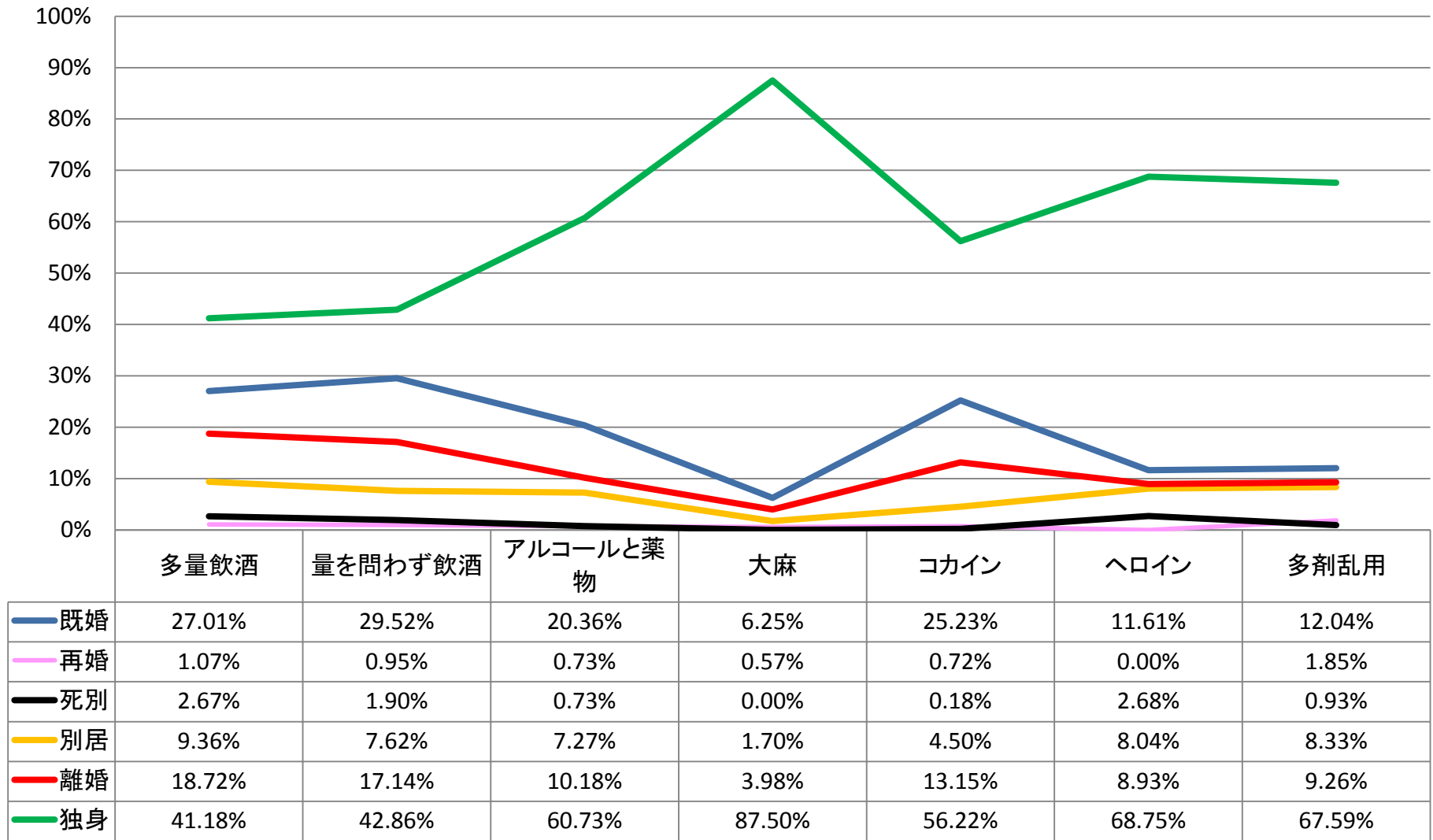
## ▶収入源:主たる薬物別



	多量飲酒	量を問わず 飲酒	アルコールと 薬物	大麻	コカイン	ヘロイン	多剤乱用
— 仕事(給与)	25.07%	28.57%	41.13%	21.05%	40.68%	11.43%	24.51%
— 失業保険給付金	8.72%	9.52%	10.19%	5.26%	9.14%	5.71%	5.88%
— 社会手当	10.35%	6.67%	6.04%	1.75%	5.91%	6.67%	6.86%
— 年金・社会保険給付	20.44%	19.05%	9.81%	6.43%	9.14%	11.43%	10.78%
— 身近な人からの援助	28.61%	29.52%	29.06%	58.48%	26.34%	51.43%	38.24%
— 不法	1.36%	0.95%	1.13%	1.75%	3.41%	6.67%	3.92%
— 売春	0.27%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	1.90%	0.00%
— その他	5.18%	5.71%	2.64%	5.26%	5.38%	4.76%	9.80%

- \* 収入源として多いのは、「仕事」と「身近な人からの援助」
- \* 「アルコールと薬物」と「コカイン」では、4割以上が仕事を持っている
- \* 「大麻」と「ヘロイン」では、半数以上が身近な人からの援助に頼っている

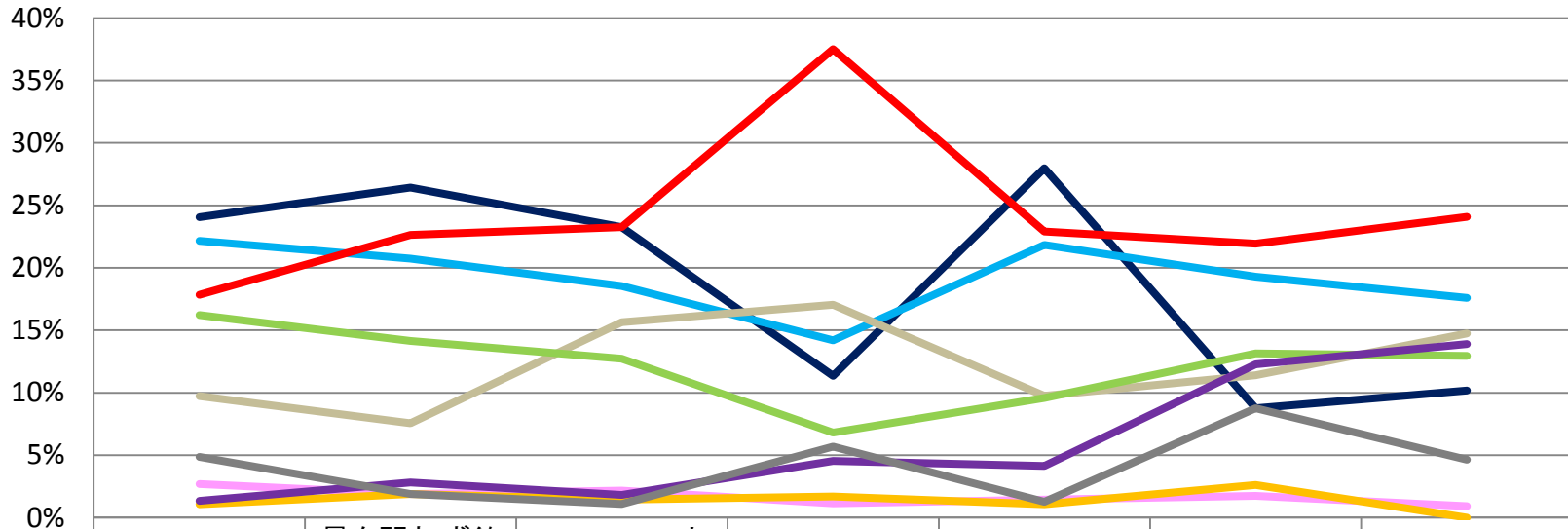
## ▶婚姻状態：主たる薬物別



\*「大麻」の約9割が独身。「ヘロイン」「多剤乱用」も多い

\* 結婚している率は「アルコール」と「コカイン」が高いが、離婚率も高い

## ▶ 居住状態：主たる薬物別



	多量飲酒	量を問わず飲酒	アルコールと薬物	大麻	コカイン	ヘロイン	多剤乱用
パートナーと子ども	24.05%	26.42%	23.27%	11.36%	27.98%	8.77%	10.19%
パートナー	22.16%	20.75%	18.55%	14.20%	21.84%	19.30%	17.59%
子ども	2.70%	1.89%	2.18%	1.14%	1.44%	1.75%	0.93%
親	17.84%	22.64%	23.27%	37.50%	22.92%	21.93%	24.07%
その他の家族	9.73%	7.55%	15.64%	17.05%	9.75%	11.40%	14.74%
友達	1.08%	1.89%	1.45%	1.70%	1.08%	2.63%	0.00%
一人暮らし	16.22%	14.15%	12.73%	6.82%	9.57%	13.16%	12.96%
保護施設	1.35%	2.83%	1.82%	4.55%	4.15%	12.28%	13.89%
居所不定	4.86%	1.89%	1.09%	5.68%	1.26%	8.77%	4.63%

\* 親との同居率が高いのは「大麻」

\* パートナーと子ども、パートナーとの同居率が高いのは「アルコール」と「コカイン」

## ●プロジェクト・オンブレによる「まとめ」から

### 1) 高年齢化対策

利用者の平均年齢が、2012年は35.5歳、2013年は36.2歳、2014年は37.91歳と上昇している。今後、高年齢化問題を踏まえたプログラムのデザインなど、何らかの対応が求められる。また就職に向けた職業訓練だけでなく、教育水準も高めていく必要がある

### 2) アルコールプログラムの強化

利用者像は、1970年代後半のヘロイン使用者を中心とした状況から、アルコール、コカイン使用者へと確実に変わってきている。増加するアルコール使用者に対応し、プログラムをデザインしていく必要がある。セラピスト研修では、早期発見とアルコール依存に関するテーマを強化する

### 3) 女性への対応の強化

女性が治療つながりにくい要因を調査し、女性にあったプログラムをデザインする

#### 女性に見られた主な特徴

- 治療につながる女性が少ない。主たる薬物は「多量飲酒」「コカイン」
- 女性は、治療に繋がる前の薬物使用平均期間は男性より短い(女性13.68年、男性15.39年)、問題摂取開始平均年齢が高く(女性22.66歳、男性19.29歳)、治療開始時の平均年齢も男性より高い(女性38.4歳、男性36.87歳)
- 女性はパートナーと暮らし(女性27.59%／男性18.93%)、男性は親と暮らす傾向があった(女性13.45%／男性25.64%)
- 子どもと暮らす割合は女性の方が顕著に高い(女性8.28%、男性0.69%)
- 女性の方が家族との葛藤・対立を自覚している(女性75%／男性69.89%)  
パートナーとの葛藤・対立も同様
- 仕事から収入を得ている人が男性より少ない(女性21.83%／男性34.08%)



#### 4) 社会関係の改善

スペインの家族関係は変化してきている。パートナーと別居している、身寄りのない、居所不定のなど、家族や社会との関係が希薄になっている人にあわせプログラムをデザインし、社会制度的介入もさらに進めていく必要がある。特に社会復帰において、家族的環境や社会ネットワークの構築は重要になる

#### 5) その他

- ・刑務所と連携をとり、今後も心理教育を行う
- ・EuropASIのデータ収集、分析の最適化、調査プロセスの改善
- ・分析から除外されたデータを分析し、プログラム改善に活かす など

# ●スペインにおける薬物所持・使用の処遇

## ＜市民安全法＞

・公共の場での薬物使用・所持は違反行為（罰金601～30,000€）

→ **自宅での自己使用とその所持は犯罪ではない！**

## ＜刑法87条／執行猶予＞

物質依存に起因する事犯者で、初犯かつ5年以内の自由刑を求刑された者に対し、公営・民営の治療機関で治療を受けることを条件に執行猶予判決を与えることができる

## ＜刑事施設規則182条／施設外での刑期終了＞

物質依存に起因した事犯者で、素行のよい3級者かつ治療を望む者は、刑期の3分の2を終了した後、刑務所外にある公営・民営の入所型治療機関で残りの刑期を終えることができる

## ＜刑法90条／保護観察＞

保護観察付き仮釈放の厳守事項に、治療機関での治療を付帯することができる（素行のよい3級者で、刑期の4分の3を終えた者。例外的に3分の2）

# PROYECTO ASOCIACION HOMBRE

ご清聴ありがとうございました



プロジェクト・オンブレ設立準備委員会のHP <http://ph-comi.jimdo.com/>